

ねっとわーく

市町村のページ〔特集：特色ある公民館活動〕

- ・「新たな形の学習を求めて」……………福岡市小笹公民館
 - ・「こんな時代だからこそ家庭に読み聞かせを」
～昭和から平成、令和へ 鞍手町文庫連絡会の活動報告～……………鞍手町中央公民館
 - ・「高齢者同士が支え合うボランティアバスの運行」
……………うきは市妹川地区自治協議会
 - ・「おさんぽコースでウォーキング」……………豊前市三毛門公民館
- こちら県公連**
- ・令和3年度福岡県公民館連合会の役員・主な事業

令和3年7月 公民館情報通巻150号

発行 福岡県公民館連合会
〒812-8575

福岡市博多区東公園7-7

福岡県教育庁教育振興部社会教育課内

TEL 092-643-3887

FAX 092-643-3889

第72回九州地区公民館研究大会はWEB配信になりました！

福岡市での開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のためWEB開催となりました。

例年、公民館情報「ねっとわーく」7月発行号では大会開催地の紹介をしています。

一堂に会しての開催は中止となりましたが、開催予定地であった福岡市の社会教育活動をご紹介します。



地域の担い手パワーアップ事業



多文化共生関連事業



家庭教育学級

福岡市の公民館は小学校区という生活圏ごとに設置されており、分館を含めると151館あります。

公民館では、住民への学習機会の提供や、地域づくりにかかわる担い手の形成、団体同士の連携の促進など「生涯学習」と「地域コミュニティ」という2つの支援を行うため、様々な事業を行っています。

○地域の担い手パワーアップ事業

地域住民に気軽に公民館に来館いただき、新たな集まりや交流を生むため、公民館ロビーなどを活用したイベントや環境づくり、市民によるICTの安心・安全な活用を支援するため、ICTに関する知識やスマートフォンの活用方法を紹介する講座(公民館スマホ塾等)を実施。

○多文化共生関連事業

福岡市に住む外国人が増加している中、外国人との共生のため、相互理解を促進するための講座や交流会などを実施。

○乳幼児ふれあい学級

乳幼児の健やかな成長を育むため、育児サークル等と連携し、育児に関する学習機会及び孤立しがちな乳幼児と親の交流の場を提供。

【地域の概要】

～坂と緑の街～小笹校区は、南は鴻巣山、北は動物園がある南公園、それに隣接する植物園をはじめ、21の公園や緑地があり、中央区でも特に自然に恵まれた校区です。高齢化率は23%と中央区では3番目に高く、一方、年少人口率（0～14歳の人口割合）は14.5%と中央区で一番高く、40代後半以降の人口は増加傾向と、子育て世代には住みやすい環境です。

【活動の経緯】

令和2年度、コロナ禍に直面し、「集まる」「つなぐ」「学ぶ」の施設としての役割が果たせず、特に学習のきっかけとなる「集まる」に関しては困難な状況でした。しかし、既にインターネット、ICTも普及した現在では“公民館に集まる”という従来の学習形態を見直す機会にもなり、物理的な「場」の共有だけではなくネットワークを通じての学習の可能性と必然性を感じました。

【活動内容】

日曜日に実施した小学生対象の講座や親子で参加する講座では、家庭で受講できるZoomが好評でした。運動の講座や手元の作業の撮影にはハンディカメラも活用し、ボランティア講座は夜の時間帯で実施する工夫をしました。以下は令和2年度に実施したオンライン（Zoom）講座です。

- ①歌遊び、手遊び
- ②小学生講座×3回
- ③ボランティア講座×3回
- ④人権問題学習講座
- ⑤サークル代表者会
- ⑥オンラインバスハイク



フラワーアレンジメント講座



手元をハンディカメラで撮影

【成果】

オンライン参加と公民館での参加の併用により、感染防止のための人的距離の確保ができるほか、坂道が身体的に負担になる高齢者や子ども連れ等が家庭から主催事業へ参加できました。特に子育て世代は周囲を気にせず自宅で育児をしながら参加ができるメリットもありました。また、夜のボランティア講座は昼間働いている方も参加しやすく、学習者同士の人的ネットワークが構築され、オンラインでの定期的な学習も行われるようになりました。

【課題】

インターネット環境や知識、経験等に差があり、IT弱者への配慮が必要であるとともに、講座の準備に時間や手間もかかり、事業の進行に際しても通信状況、入退室、タイムラグ等により、実際の対面と違いリアルタイムに進みづらい面もあり、今後の環境整備や主催者側のスキルアップも必要だと考えています。また、今後は対面とオンラインの併用型が必要とされていくと思います。

【問合せ先】 福岡市小笹公民館
〒810-0016 福岡市中央区平和 5-13-75
TEL 092-531-9428 FAX 092-531-9429

こんな時代だからこそ家庭に読み聞かせを
昭和から平成、令和へ 鞍手町文庫連絡会の活動報告

鞍手町中央公民館

【地域の概要及び経緯】

福岡県の福岡市と北九州市の中間部に位置する鞍手町は、かつては石炭産業が盛んな地域でした。その後石炭産業が衰退し、現在では巨峰栽培や水稻栽培など農業が盛んな豊かな自然に囲まれた地域です。

【活動内容】

特色ある事業のひとつとして、長い間町内で読み聞かせ事業を行っている鞍手町文庫連絡会の活動を報告します。読み聞かせの対象は乳幼児から高齢者まで、読書の大切さや楽しさを幅広い年代の方々に知ってもらうため以下の活動を行っています。

(1) 乳幼児向けブックスタート事業

ボランティアによる赤ちゃんへの絵本の読み聞かせを実践し親子のふれあいの大切さを伝えています。

(2) 小学校と保育所での読み聞かせ事業

ボランティアグループが各小学校や保育所へ出向き、低学年から高学年まで年齢に応じた本を選び、様々な形で読み聞かせを行っています。

(3) 町内老健施設で読み聞かせ 町内老健施設（デイケアサービス）で読み聞かせ事業
高齢者向けに昔話の朗読などを行っています。



【写真1：ブックスタート事業の様子】

【成果と課題】

昭和から平成にかけ少子高齢化が進み、生活様式や家庭環境の変化（共働き世帯や核家族の増加）で子どもや大人の生活スタイルが時代とともに随分と変化してきました。高齢化しつつある後継者不足の解消として、保護者世代と父親（イクメン）への働きかけを行っています。また昨年より新型コロナウイルス感染症の影響が日本中に広がっていきました。現在、残念ながらボランティア活動は休止中です。そのためブックスタート事業の赤ちゃん、各学校の子どもたち、老健施設の高齢者の方にもお会いすることができません。オンラインを活用した会議や学校の勉強が行われていますが読み聞かせもオンラインで行えばいいのでしょうか。このコロナ禍の時代だからこそオンラインの画面越しではなく必ず対面で行うことが大切だと思います。これは読み聞かせという活動が、人と触れ合うことで成り立つものだからです。こんな時代だからこそ、赤ちゃんからお年寄りの方に読み聞かせのすばらしさを知っていただきたいと思います。いまだコロナ収束の見通しは立ちませんが、早く元通りの生活に戻り、本来の読み聞かせの活動を再開していきたいと思います。



【写真2：読み聞かせボランティアの様子】

【問合せ先】 鞍手町中央公民館

〒807-1311 福岡県鞍手郡鞍手町大字小牧2105

TEL 0949-42-7200 FAX 0949-42-0149

高齢者同士が支え合うボランティアバスの運行

うきは市 妹川地区自治協議会

【地域の概要と経緯】

うきは市の妹川地区は、浮羽町の山間部にあり、5つの行政区が巨瀬川に沿って点在しています。現在世帯数 136 戸、人口約 430 名、ここ数年は少子高齢化が進んでおり、平成 31 年 3 月 31 日には 140 年の歴史をもつ妹川小学校は閉校を余儀なくされました。地域の“拠り所”となっていた小学校がなくなったことで、小学校を中心とした地域のつながりが減り、様々な地域の課題が見えてきました。

【高齢者向けバス運行開始のきっかけとなぜ続行できているか】

そもそも妹川地区では、平成 30 年 6 月から「地域包括ケアシステム」構築のための研修会（学習会）が始まっており、課題として挙げたものの一つが、高齢者に対する生活支援でした。他地区でも同様だと思いますが、高齢化率が 40% を超えると自ずとその対策が求められ、妹川地区としてどのように取り組むか協議を重ねていました。

そのような中、小学校の閉校に伴い、児童は平地の小学校へ「スクールバス」で登下校をすることを受け、閉校に向けた「準備会議」の中で、自治協議会として「スクールバスの空き時間帯を高齢者向けの移動支援に使うことができないか」と提案し、このことを自治協議会の要望として市の方に上げることになりました。市の方でも交通政策会議等でこの要望について協議がなされ、スクールバスを利用した高齢者の移動支援のためのボランティアバスの運行が決定しました。

しかし、いざ運行となると幾つかの課題をクリアしなければなりません。まずは「運転手の確保」でした。これについては、自治協議会が自動車の運転技術に心配のないボランティア見つけ、依頼することから始めなければいけません。妹川地区には従来から「学校のことなら手弁当でもやるばい！」といった土壌があり、自治協議会から依頼をしたところ数人の方が快く応じていただきました。その後も、「協力をさせてください」と3名（1名は他地区）の方から申し出がありました。現在は運転登録者が6名になったことで安定した運行ができています（火～金曜日の運行）。利用者からは日々労いの言葉をかけていただき、運転手の励みとなっています。

もう一つの課題は、「バスの利用者への日常的な関わり」でした。これについては、利用者の安否確認、家庭環境の変化の把握、情報の提供、ニーズの把握等があり、コミュニケーション能力に長けた人材の確保が必要となります。

妹川地区では、長年（長い行政区では 30 年近く）ほぼボランティアの形で続いている「よりあい活動」というものがあります。そこの世話役として携わっている“元気な高齢者”にこの活動の担い手となっていただくよう依頼しました。

利用者のニーズの把握は大切であり、コミュニケーションをとっていく中で、多くが内科、眼科、歯科、整形外科と毎日のように通院していることが改めて分かりました。妹川のバスは一般的なバスの運用と違い、自宅から病院までの送迎（ドア to ドア）をおこなっており、この必要性については「地域包括ケアシステム」の学習を積み重ねる中で学び合ってきた事項ですので、ニーズに合った運行をスムーズに実施することができています。

【今後の課題】

今年度バス運行開始から3年目を迎えますが、運転手の高齢化は避けることはできません。「後継の運転手を如何に確保するか」が課題となっています。バス利用の希望登録者は 40 名を超え、今後も地道な運転手の確保に努め、地元住民の支えとなるよう取り組んでいきたいと思っております。



【写真1:研修会の様子】



【写真2:バス利用の様子】

【問合せ先】 妹川地区自治協議会

〒839-1415 うきは市浮羽町妹川2329-5

TEL/FAX 0943-77-7660

おさんぽコースでウォーキング

豊前市三毛門公民館

【地域の概要】

豊前市は人口約2万5千人、高齢化率約37%の海と山に囲まれた地域です。三毛門地区は、市の南東部に位置し、前に周防灘を臨み、三毛門干潟を有する風向明媚な地域です。令和3年4月現在の人口は約4千人で、高齢化率は31.7%となっています。

【経緯と活動内容】

平成31年4月に「地域住民によるまちづくり」をめざして、三毛門地区地域づくり協議会を立ち上げました。協議会には5つの部会があり、そのうちの「食と健康部会」「地域振興部会」の委員らが地区内を歩き、三毛門地区におさんぽコース(3~5km)を作りました。コースは「三毛門地区おさんぽマップ」として印刷製本し、公民館利用者などに配布しています。平成2年4月に「三毛門おさんぽコースを歩く会」を立ち上げ、回覧、ポスター、防災ラジオ等を活用して会員の募集を行っています。会員総数は現在のところ70名を超え、年齢は10代未満から80代にわたっています。新型コロナウイルスの感染対策を行いながら、ほぼ毎月1回、地域住民の健康と地域のお宝発見のため、マップを片手に皆で楽しくウォーキングを行っています。



【歩く前はしっかりとストレッチ】



【今日も楽しく歩きましょう!】

【今後の課題】

現在3コース(3km、4km、5km)を歩いていますが、「3kmが長くて疲れるという会員」「もっと長い距離を歩きたいという会員」それぞれの会員の要望に応えるために新たな歩けるスタッフの確保をめざしていきます。

【問合せ先】豊前市三毛門公民館

〒828-0082 豊前市大字三毛門9 1 4 番地 4

T E L / F A X 0979-82-2671

E-mail : mikekado-kan@aroma.ocn.ne.jp

＜令和３年度 県公連の役員＞

書面にて開催された福岡県公民館連合会の評議員会において、令和２年度の事業報告及び令和３年度の事業計画等が承認されました。

また、本年度は役員の改選期ですので、就任された方々を併せて紹介します。

【会長・副会長】

役職名	氏名	所属・職名
会長	木原 忠	宇美町長
副会長	安部 正俊	福岡県社会教育委員連絡協議会長 (久山町教育委員会教育長)
副会長	入江 哲生	筑前町教育委員会教育長
副会長	松枝 勉	福岡市市民局コミュニティ推進部公民館支援課長

【理事】

地区名	氏名	所属・職名
北九州市	佐藤 健治	北九州市市民文化スポーツ局地域・人づくり部生涯学習課長
福岡市	松枝 勉	福岡市市民局コミュニティ推進部公民館支援課長
福岡地区	市部 檜木 英幸	大野城市地域創造部コミュニティ文化課長
北九州地区	市部 松尾 竜彦	宮若市教育委員会社会教育課長(兼中央公民館長)
北筑後地区	市部 松下 雅行	小郡市市民福祉部コミュニティ推進課長
南筑後地区	市部 山口 昭弘	八女市中央公民館長
筑豊地区	市部 大塚 千穂子	嘉麻市教育委員会生涯学習課長補佐(兼中央公民館長)
京築地区	町村部 奥村 一生	築上町中央公民館長
専門部会	部長 野田 久敏	北九州市市民文化スポーツ局地域・人づくり部生涯学習課係長

【監事】

地区名	氏名	所属・職名
福岡市	松枝 勉	福岡市市民局コミュニティ推進部公民館支援課長
筑豊地区	立田 昌子	田川市教育委員会文化生涯学習課長

【専門部員】

地区名	氏名	所属・職名
北九州市	野田 久敏	北九州市市民文化スポーツ局地域・人づくり部生涯学習課社会教育係長
福岡市	上野 真由美	福岡市市民局コミュニティ推進部公民館支援課公民館係長
福岡地区	印藤 真	須恵町教育委員会 社会教育課主任主事
北九州地区	相場 建一郎	宮若市教育委員会社会教育課公民館・スポーツ振興係長
北筑後地区	森山 敦史	東峰村教育委員会教育課主査
南筑後地区	松尾 太介	八女市教育委員会社会教育課社会教育係長
筑豊地区	坂田 修一	川崎町中央公民館長
京築地区	米谷 誠	行橋市教育委員会生涯学習課管理係長

<本年度の主な事業>

1 専門部会

- (1) 公民館大会、実践交流会の企画・運営
- (2) 地区別研修会、公民館事業活性化研修の運営補助等
- (3) 公民館に関する資料等の収集及び提供等
- (4) 視察・報告事業

2 研究・研修事業

- (1) 第43回全国公民館研究集会・第72回九州地区公民館研究大会福岡大会・第66回福岡県公民館大会
 - ・期 日 令和3年11月上旬
 - ・実施方法 WEB 配信及びDVD 送付
 - ・内 容 記念講演、各分科会発表

- (2) 公民館実践交流会

県内公民館関係者・コミュニティ施設関係者が一堂に会し、日頃からの実践を発表し、意見・資料・情報等の交換をとおして、これからの公民館の在り方を考える。

- ・期 日 令和4年1月28日（金）
- ・会 場 宗像市 宗像ユリックス

- (3) 公民館地区別研修会

県内8地区で各地区の実態に応じ、主体的な企画による研修を行う。

ただし、研修の内容は、各地区の公民館関係者相互で、公民館を取り巻く状況等について理解を深めるものとする。開催の可否については当該地区で検討

【対象地区】

北九州市、福岡市、福岡地区、北九州地区、北筑後地区、南筑後地区、筑豊地区、京築地区

- (4) 公民館事業活性化研修（全公連助成事業）

県内公民館関係者・コミュニティ施設関係者が、公民館事業の活性化をとおした地域づくりの在り方を探る。

- ・期 日 令和3年10月18日（月）
- ・会 場 福岡県立社会教育総合センター

- (5) 公民館全国セミナー（全公連主催）への参加者の推薦

- ・期 日 令和4年1月26日（水）～1月28日（金）（予定）
- ・会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター

3 情報・資料等の提供事業

<ホームページによる情報提供>

市町村の特色ある公民館活動や県公連の活動状況、実践交流会で発表された実践事例等をホームページに掲載し、情報提供の充実に努める。

- ・公民館情報紙「ねっとわーく」
- ・福公連資料「公民館福岡」
- ・県公民館大会誌
- ・県内公立公民館一覧等